

経済・金融 フラッシュ

雇用関連統計 10年1月 ～失業率は10ヵ月ぶりの4%台に

経済調査部門 主任研究員 斎藤 太郎

TEL:03-3512-1836 E-mail: tsaito@nli-research.co.jp

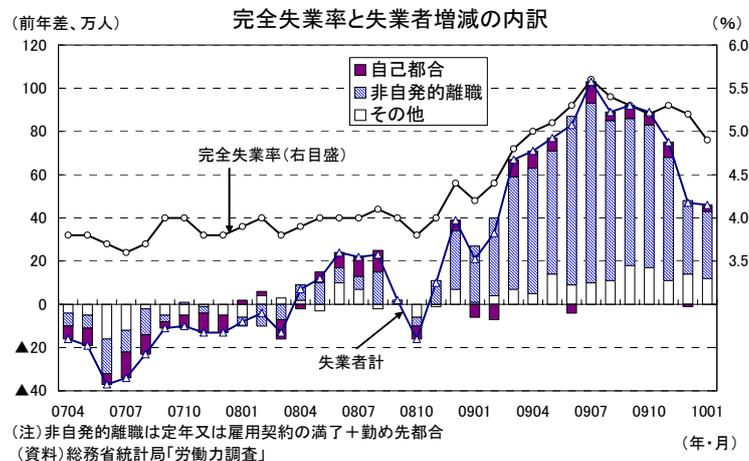
1. 失業率は10ヵ月ぶりの4%台

総務省が3月2日に公表した労働力調査によると、1月の完全失業率は前月から0.3ポイント低下し4.9%となった(ロイター集計事前予想:5.2%、当社予想は5.1%)。失業率は09年4月以降、5%台で推移していたが、10ヵ月ぶりに4%台まで低下した。

なお、1月分の公表と同時に過去にさかのぼって失業率の季節調整替えが実施され、過去最悪を記録した09年7月の失業率は5.7%から5.6%へ下方修正された(過去最悪であることは変わらない)。

雇用者数は前年比▲0.6%となり、12月の同▲1.2%から減少幅が大きく縮小した。失業者数は323万人、前年に比べ46万人の増加となったが、ピーク時(09年7月の103万人増)に比べると増加幅は縮小している。季節調整値でみた失業者数は328万人となり、ピーク時(09年7月)の369万人からは40万程度減少している。

失業者の内訳を求職理由別に見ると、非自発的な離職による者が前年に比べ31万人の増加(うち勤め先都合が21万人増)、自己都合による者が3万人の増加となった。

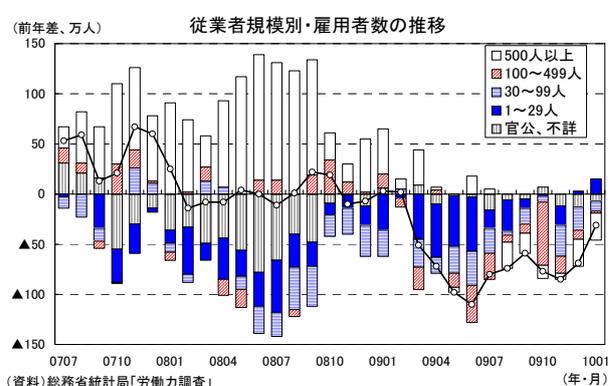
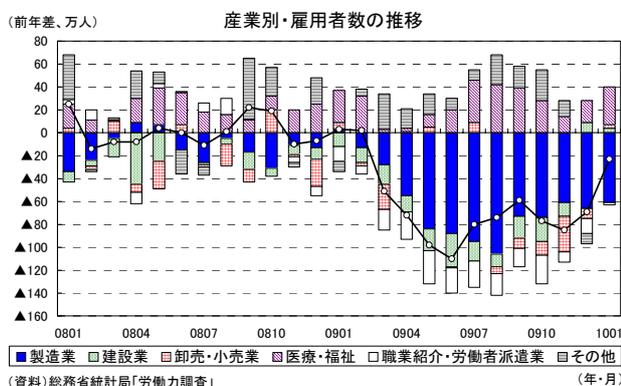


雇用者数の内訳を産業別に見ると、製造業の雇用者数は前年に比べ▲61万人の減少と12ヵ月連続で減少した。09年8月の同▲106万人減に比べれば減少幅は縮小しているが、3ヵ月連続で60万人台の減少となっている。鉱工業生産は09年春頃から急回復を続けているが、生産の水準が依然としてピーク時の8割程度にとどまっていることもあり、製造業の雇用の回復ペースは緩慢なものにとどまっている。

一方、医療・福祉は前年に比べ33万人の増加(12月:19万人増)と引き続き雇用の下支えとなっているほか、卸売・小売業が前年に比べ3万人増(12月:▲9万人減)と6ヵ月ぶりの増加とな

った。派遣社員が含まれる職業紹介・労働者派遣業の雇用者数は前年に比べ▲2万人減と15ヵ月連続の減少となったが、12月の▲13万人減からは減少幅が大きく縮小した。

従業員規模別には、12月に2年7ヵ月ぶりに増加に転じた1~29人の中小企業の雇用者数が2ヵ月連続で前年よりも増加したが、30人以上の規模では減少した。

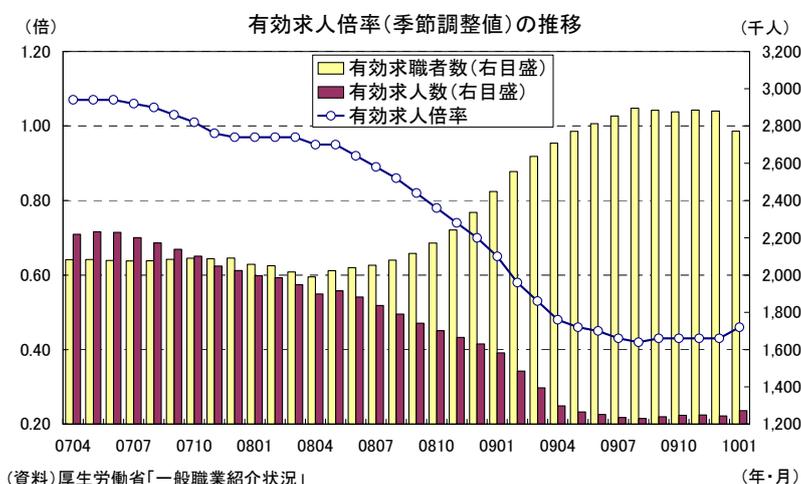


2. 有効求人倍率は4ヵ月ぶりに改善

厚生労働省が3月2日に公表した一般職業紹介状況によると、1月の有効求人倍率は前月から0.03ポイント上昇し0.46倍となった(ロイター事前予想:0.47倍、当社予想も0.47倍)。有効求職者数が前月比▲3.8%と2ヵ月連続で減少する一方、有効求人数が前月比2.3%と2ヵ月ぶりに増加した。

有効求人倍率も失業率と同様に過去にさかのぼって季節調整替えが実施された。従来は09年7月、8月に過去最低の0.42倍を記録した後、9月から4ヵ月続けて0.01ポイントの改善となっていたが、季節調整替え後は、09年8月の0.42倍から9月に0.43倍に改善した後、12月まで横ばいが続くという形となった。

有効求人倍率の先行指標である新規求人倍率は前月から0.04ポイント上昇し0.85倍となった。新規求人数は前月比▲1.1%と5ヵ月ぶりに減少したが、新規求職申込件数が前月比▲6.0%の大幅減少となったことが、求人倍率の上昇に寄与した。求人数の回復ペースは緩やかなものにとどまっております、先行きも企業の求人意欲が急速に高まることは期待できないが、当面は失業者の減少を反映した求職者数の減少が労働需給の改善に寄与することになるろう。



(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保證するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。